

4 - 9 伊豆半島におけるラドン観測 (XV)

Radon Observation in the Izu Peninsula (XV)

東京大学理学部

Faculty of Science, The University of Tokyo

前報¹⁾にひきつづき,伊豆半島における地下水中のラドン濃度の連続観測結果(1996年11月~1996年10月)を報告する。

観測点は,第1図に示す中伊豆第1(SKE),中伊豆第2(RHB)の2地点である。第2図は各観測点における,1時間毎のラドン濃度(積算値)の24点移動平均の変動で,縦軸はこの期間の平均値に対する相対値である。また各図の右上には,1994年以降のラドン濃度の観測値を示してある。

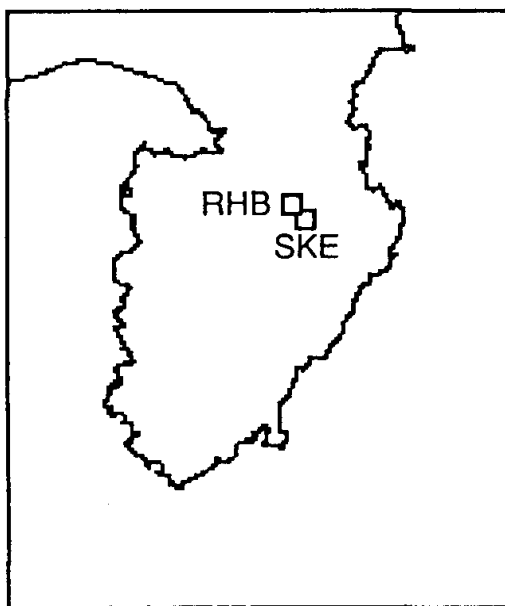
SKEのラドン濃度は観測期間中ほぼ一定である。

RHBでは,例年夏期に比べて冬期のラドン濃度は低く,変動も大きい。

1997年3月に発生した伊豆半島東方沖の群発地震活動に伴って,RHBではラドン濃度の上昇,SKEでは低下が観測された²⁾。

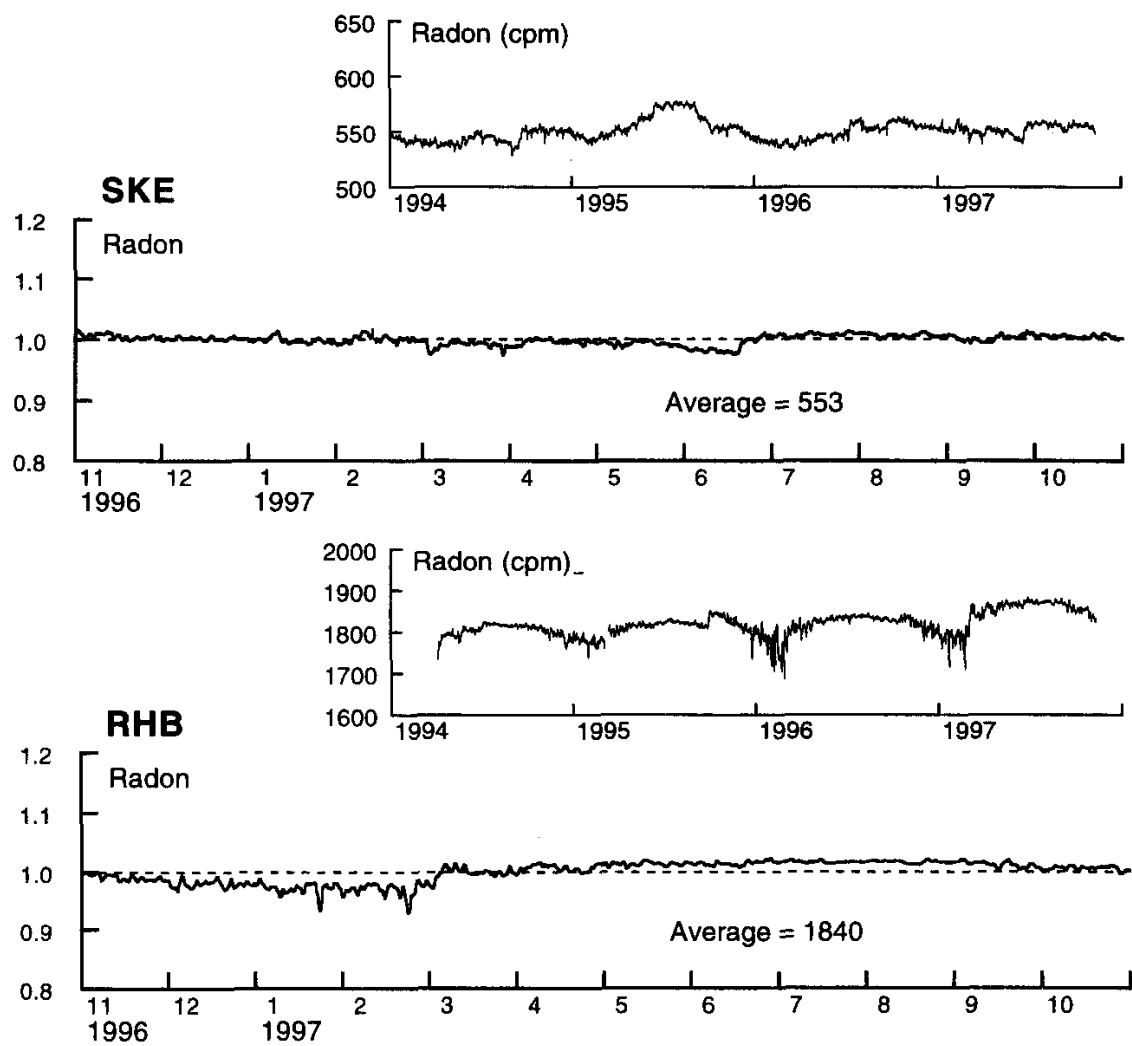
参 考 文 献

- 1) 東京大学理学部:伊豆半島におけるラドン観測(XIV),連絡会報,57(1997),365-366.
- 2) 東京大学理学部:1997年3月伊豆半島東方沖群発地震活動に伴う地下水変化,連絡会報,58(1997),318-319.



第1図 伊豆半島の地球化学観測点の位置

Fig.1 Locations of geochemical observation sites in the Izu Peninsula.



第2図 SKE (中伊豆第1), RHB (中伊豆第2) における地下水中のラドン濃度の変化
 Fig.2 Temporal variations in the radon concentration in groundwater at SKE (Nakaizu-1) and RHB (Nakaizu-2) . The data are 24-hour moving average values.